

【山城】南アルプス、深南部

【ルート】天狗石山～七ッ峰

【登山方法】テント縦走

【メンバー】吉川

【行動日】3月3日～4日

【行程】

3月3日茂原駅 5:05－静岡駅－大井川本線金谷駅－井川線奥大井湖上駅 11:23－天狗石山
分岐 13:43 テント設営 14:11－天狗石山 14:30－智者山 14:55/15:30－見晴台 16:05－幕場
16:09

3月4日幕場 6:50－益田山 8:39/8:50－七ッ峰 9:55/10:00－登山口 12:40－接阻峡温泉
14:14 バス－千頭駅 14:53 (SL) －金谷駅－静岡－茂原 19:57

【内容】

3月3日(晴) 眩しいほどの好天気の中、あこがれの大井川鉄道で接阻峡へ向かう。広すぎる川幅に一筋の水線を描いている大井川、赤い架橋の奥に朝日岳を望み、列車は、ガタンゴトゴト、ガタンゴトゴト進む。アプトいちしろ駅から長島ダム駅間は、アプト式機関車が連結され後方から押し上げるように走る。これから山に入ると思われなかったりした列車の旅のよう。ようやく、奥大井湖上駅に到着。車掌さんに見送られ、登山開始。



後方に軌道車接続

鉄橋の先に湖上駅

汽笛を鳴らしながら湖上を走る赤い車両は、コバルトブルーの湖面に映える。接阻湖に張り出した尾根の末端にある駅の階段を上がると、レイクコテージ奥大井休憩所があった。その脇に天狗石山ハイキングコースの案内板に従い進む。変化のない樹林帯をひたすら登っていると江戸時代のものらしいお地蔵さんに迎えられた。傾斜が緩くなりピークの巻き道に入ると、間もなく、天狗石山の鞍部に着いた。植林帯を抜け広葉樹の明るい場所にテントを張り、天狗石山と智社山を目指す。



朝日岳～大無限山、奥に池口岳、光岳

天狗石山山頂

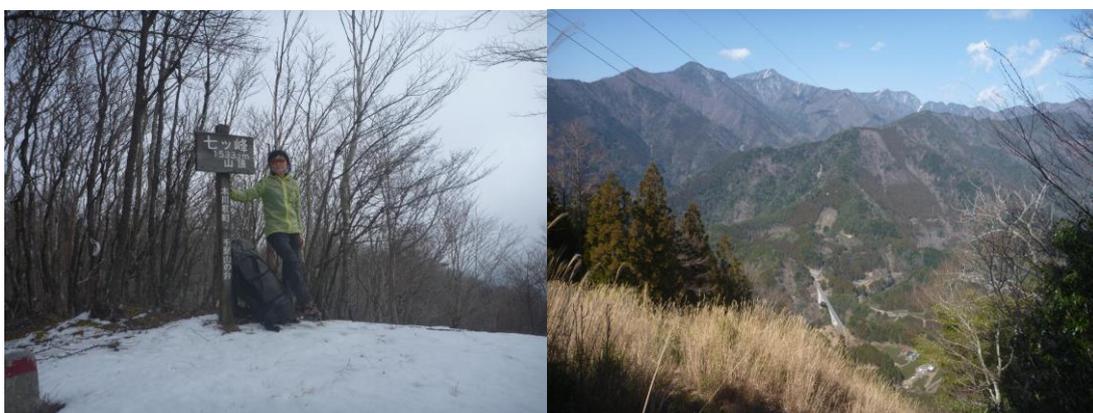
この辺りは、立派な標識で整備されとても歩きやすいハイキング道だ！時々雪を踏みしめ歩いた。智者山での展望は、南から西の展望良く、近い内に行きたい、前黒法師岳、大沢山方面、西は、逆光ではっきり見えないのが残念だが、黒法師岳、丸盆岳等、稜線を繋いで歩いた山のシルエットを眺め、しばしまったりする。天狗石山の反射板のある見晴場では、数年前、朝日岳から大無限を縦走して、自然に戻りつつある恐怖の林道崩壊地をいくつも越え、眼下に、コバルトブルーの井川ダムや長島ダムを望みながら長い車道を歩いた事が思い出され、しばらく動けなかった。テント場に帰ると、夕日が沈みかけていた。

食事の後、ケーキと紅茶を頂きながら、走馬灯のように浮かんでくる、深南部の山々を思い出し至福の時を過ごした。そして、深夜は、駿河湾方面か？夜景が素晴らしく綺麗だった。

3月4日（ガス、曇り、下界は晴れ）早く出発したいが、なかなか明るくならない、昨晚の夜景も見えず、辺りは、恐ろしく真っ暗！当分動けそうにないので、コーヒーを入れ、夜明けを待った。深いガスに覆われていたが、踏み跡と、木に赤ペンキの印があったのでそれほど不安なく、昨日、持ち上げた水が、3Lくらい減ったので、テントは濡れていても背中がかなり軽く快適に足が進む。途中クマの糞を何度もみたら怖くなって笛を吹きながら歩いた。

奥大井湖上駅分岐からアップダウンを繰り返して進み、標高 1240m から 1179m の鞍部を目指していた時、赤ペンキの印はあるが、ルートから外れているのに気付く。トラバースして隣の尾根に移動しようと思ったが、かすかな踏み跡はあるものの急斜面だったので、ここは素直に元の場所に登り返した。よく見ると、4、5m 左に馬酔木がみちをかくしてい

た。登り返した斜面に同じような赤ペンキの印が、何故あったのか？帰宅してから、調べてみると仕事道であるとか、急斜面の巻き道など書かれていた。修正した尾根道も、急斜面で凍っていたのでアイゼンを着用した。益田山までは、痩せ尾根や崖の縁を歩いたり、変化も出てきた。ガスに覆われ幻想的な自然と一体化してしまった。森のヒロインになって健やかな時が流れる。益田山の手前に過っての古道が交差していてここから、樽尾に下るルートの表示はしてあったが、井川側の表示はなかった。益田山山頂に着いた。山頂が、だだっ広い尾根上にあることが分かったのは、陽の光が差し込み一瞬ガスが晴れた時だった。ここで尾根は北に向きを変えるので、方向を確かめ、踏み跡を外さないよう気を付けて進む。ピークを一つ越し、標高 150m の辛い登りで、七ッ峰に到着。



七ッ峰山頂

左、朝日岳、大無限山、小無限山

ここからの展望を期待していたが、相変わらずガスの中で残念！証拠写真を撮って山頂を後に下り始めたら、鈴の音と共に人影が浮かんできた。これから、私が下るルート、梅地から登って来たという地元民に出会う。このルートは分かりにくい所が多いので、我々の踏み跡を辿り（積雪10センチ位）植林帯は、赤布を付けてきたので、それを目当てにとか、途中危ない岩場は、トラロープがあるからとか、トラバース道は凍っているからとか色々教えてくれた。高度を下げて行くと、ガスも薄くなり見通しも良くなってきた。なるほど、二重山稜あり、赤布がやたら目立つ。教えていただいた通りクリアーして鉄塔のある開けた場所に出た。眼下に接阻峡、その先に朝日岳から大無限が大きく連なっていた。ガスはすっかり消え眩しいほどの景色が広がっていた。茶畑を下り無事接阻峡に下山した。

温泉に浸かってバスで千頭に移動し、ここからSLに乗車した。SLマニアが、沿線のあちこちにカメラを据えて手を振ったりしている。車内もレトロで、なんだか不思議な感覚！この後、新幹線で帰路に着く。

日帰りできるルートを歩荷訓練兼ねて、山中泊の計画にした。アプローチを鉄道にした事でローカル鉄道の旅も楽しめました。

